

事例③

「窯業」～働く意欲がもてる作業学習～



作業をとおして、達成感、責任感、役立ち感などを感じることができるよう、生徒が自分自身でできる作業の精選や分業制、作るものを実際に使ってみる、あるいは販売や地域の店への納品などを設定して取り組みました。

対象

(高等部くらし地域コース2年1～3組
計18名)

活動内容

リーダーの役割や作業学習についての学習
自分たちの作るものがどうなるかの学習
作業工程を理解した一人の作業
目標個数を生徒同士で決定
目標数や振り返り表を意識した作業
販売や地域の店への納品 など

単元計画

【第一次】 オリエンテーション
作業学習で何をいつまでにするのか、自分の役割が何かなどの確認



【第二次】
マグネット・小皿作り
分業での作業



【第三次】
マグネット・ソーサー作り
分業での作業



設定の理由

- ・それぞれ任された作業を果たし、責任感を感じることで「働くって楽しい」と思えることや自分たちの作った物が「役立っている」ことを実感し、社会参加意欲や勤労意欲を育て高めることをめざして設定した。

工夫のポイント

- ・生徒が一人で作業できるよう道具の工夫や役割の工夫をした。
- ・一人の生徒が一つの製品を作るのではなく、工程を分けて、コミュニケーションを図りながら取り組むようにした。
- ・毎回授業のはじめに生徒が目標を設定して、終わりにその目標を達成できたかを視覚的に振り返り、意欲や達成感につなげた。
- ・年3回自分たちで販売したり、実際にお店から注文を受け納品したりするなど地域とのつながりも意識した。

将来へのつながり

「達成感」「自己肯定感」「役立ち感」を実感できることで、将来どんな仕事についても「意欲」をもって「主体的」「積極的」に取り組める力をはぐくみたい。

